



吉川友子後援会報

平成 29 年 11 月

 あなたとわたし
友&愛

 発行：吉川友子後援会
 会長 上野昭久
 会計 高塚紀之

No 21

 幹事長 田村至
 事務局長 滝沢さや香


1 Day タイムスリップ

「ありがとう保育園」大盛況に終わる！

9月2日、望月地区で閉園した4保育園を使って、「1 Day タイムスリップ ありがとう保育園」という集いを開催しました。私も実行委員の一人として準備から関わりました。多くの団体や個人の皆さまのご協力のもと200人を超える参加があり、大盛況でした。ご参加ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

保育園が閉園して、たくさんの思い出を抱えていながらも、いつの間にか園舎が取り壊されていたということではあまりにもさみしすぎる、という思いと、子どもたちにも望月に関わりのあるアーティストを知ってもらい、本物のアートに触れ、地元への誇りにつながることを願い、ベランダや各教室にはさまざまな形の芸術を展示、プロの演奏家によるミニコンサートなども行いました。

当日は懐かしい給食の献立で昼食をつくり、親と子たちの楽しい食事会も開きました。以前は落書きできなかった園舎の壁に、もう壊すのだからと、教育委員会の許可をいただいて、それぞれの思いや絵を描き、壁画アートを完成させました。ボランティアのみなさんをはじめ、子どもたちも子ども実行委員会として、大変活躍していただきました。

参加者も主催者も一体となって、長年子どもたちを育ててくれた保育園に感謝し、そして未来に向けて「保育園」という共通の場でつながりあえたことは、私たち実行委員会にとっても良い経験でした。当日の様子は佐久ケーブル、蓼科ケーブル、有線放送などで取材していただき、番組として放映・放送されました。作成された有線放送は番組コンクールで優良賞を受賞しました。このイベントを通じての波及効果はこれからもまだ続いていくように感じました。

保育園統合にあたり、さまざまなご意見があり、個人的にも複雑な思いもありました。しかし、そんな思いを怒りや悲しみだけとどめず、こうして未来へつなぐ活動にできたことは、意義のあることであり、ひとつのステップとして受け止めていきたいと思います。



■総務文教委員会では、山口県宇部市、萩市・下松市へ視察に行きました。宇部では市国民保護計画、英語教育について、萩市ではまちじゅう博物館について、下松市では行財政改革について研修しました。

川西日赤への運営補助金

増額して1億500万円で議案提出へ

平成25年度から、佐久市・東御市・立科町より川西日赤の運営補助として、毎年8000万円が支出されてきました。この補助金は、国から交付税で還元されていましたが、5年間の期限があり今年度で終わる時期を迎えていました。

この補助金を5年間延長し、さらに増額してほしいと強く要望してきました。10月30日に行われた川西衛生保健施設組合議会において、補助金の継続、また限度額の1億500万円への増額を3市町が合意し、各市町の議会に提案するという報告がありました。川西日赤の存続のための署名や要望活動にご協力いただいたみなさまに心から感謝いたします。28年度より制度が変わって、国が8割、地元が2割負担となっていますが、これから各市町村議会や川西衛生保健施設組合議会にて審査され、正式決定になります。各議会においても承認されるよう、努力いたします。

川西日赤は、川西地区では唯一入院施設のある病院です。常にほぼ満床の状態を保っており、運営が厳しいのは、診療報酬などの制度によるものと思われます。佐久市・東御市・立科町としても、病床の形態の変更など病院の努力をふまえ、引き続き経営補助が必要だと判断していただきました。今後も地域にとって欠かせない医療施設として存続していけるよう、議会などで訴えていきます。



軽井沢町議と2人で飯田市「風の学舎」へ。真ん中は元飯田市議

自然エネルギー・公共交通・公民館活動

軽井沢町議と2人で飯田市へ勉強に行ってきました

8月に飯田市へ自然エネルギーの「風の学舎」と飯田市の公共交通・公民館活動について勉強に行ってきました。「風の学舎」は民間施設ですが、自然エネルギーのみを使った施設で、ゲストハウスのような宿泊施設としても使われています。農場も持ち、農業体験もでき、家族連れや学校などからも利用があるそうです。管理者が元市職員で、「環境文化都市」宣言への想いなども聞くことができました。自然環境が豊かな佐久市も、山の管理などに苦勞も多いことから、こういった自然環境を活かした事業に取り組みたいです。

公民館活動では全国から注目される飯田市ですが、市内20地区に公民館があり、すべての公民館に正規職員が配置されていました。近年は若い職員を配置して、職員を教育する場として位置づけられているそうです。社会教育の重要性は市長が変わっても引き継がれ、活発な市民活動や人形劇フェスティバルなど国際的な事業にも活かされているようです。

公共交通のあり方においても公民館活動が活かされ、公共交通市民会議として住民が参画し、住民が望む公共交通を生み出していました。個人で行った研修でしたが、佐久市の今後を考える上で大変参考になりました。

この会報を読みたいという人がご近所やご親戚やお友だち、周りの人におられましたら、ご連絡ください。お届けします。また、ご意見もいただければ、うれしいです。 連絡先 ■上野昭久 0267-53-2543 吉川友子 0267-53-2300 携帯 090-9003-8116 Eメール 2013tomoko@gmail.com

第二回定例議会での一般質問

第三回定例議会が8月31日から9月28日まで開催され、吉川議員は一般質問に登壇しました。

滞在型観光として農泊事業の推進を

（吉川）農泊事業とは、滞在型の観光客を受け入れる事業です。農水省では、平成32年度までに農泊をビジネスとして実施できる地域を全国に500か所、まず来年度は300か所創出する計画です。取組地域の自立的発展と所得の向上を目指すものです。具体的な支援策として農山漁村振興交付金に創設した農泊推進対策を観光庁とも連携して行うものですが、応募、採用されて支援を受けるための要綱や留意点など、佐久市ではどうとらえているかお聞かせください。

（経済部長）農泊に取り組む地域に対しては、法人立ち上げに要する経費や先進地視察、人材派遣などに10分の10の補助、地域の宝の磨き上げのためのストーリー作りや体験プログラムの開発を10分の10で支援するほかに、事業主体が整備する古民家改修などの初期投資について2分の1補助を行うというものです。国の支援を受けるための最低要件や留意点などですが、①農業、農村体験や宿泊施設等地域のさまざまな受け入れ組織が一体となって取り組むこと。

②事業主体が法人格をもつか、法人格を持つことを目的として組織されていること、③事業主体が農泊事業の推進に当たり、取り組み地域の所得向上をめざした計画を策定し、市の認定を受けるということ。④市はその農泊事業計画を認定し、地域活性化計画を策定すること。⑤県は市町村の活性化計画を認定し、県の活性化計画を策定すること。以上が農泊事業における補助を受けるために必要なことです。

（吉川）今年採用された地域の審査をみると、過疎地域など、中山間地の特色を活かせる地域は重視するとありました。過疎地域が持つ良さを活かして、持続可能な産業の育成を支援するという制度です。

農泊事業として採用された地域の中には自治体が主体団体に出資するなど深く関わっている地域もあります。栃木県大田原市では、市や企業が出資して株式会社を設立し、昨年度は8千人以上の観光交流人口を生んでいます。遊休農地や廃校舎も活用しているそう、佐久市でも活用できる資源はたくさんあります。この農泊事業の支援を受けたいという地域に対して、佐久市としてはどのように関わっていく予定かお聞きます。

（経済部長）市としては農泊の推進のために、①農泊の意義や魅力についての周知啓発する、②農泊に参加する事業主体やプレイヤーの掘り起こし、参加希望者からの相談の受付、③プレイヤーのネットワーク化と参加する組織の立ち上げ及び事業計画の策定、④ソフト事業ハード事業の活用等による計画の実現化などについて支援します。（吉川）ネットワーク化や掘り起こしは具体的にどのように行う予定ですか。

（経済部長）農業体験を実施する団体をはじめ、宿泊業にかかわる方、農家レストラン、直売所の関係の方々などです。まずは広報等でお知らせします。

（吉川）今年度は2月に募集が始まると聞いています。あまり時間がありません。成功の秘訣は地域の食材や特産品を使って、徹底したこだわりをもち、農家や飲食店、職人などが連携をとることだと聞いています。農泊のような滞在型観光はこれから発展するといわれています。この成功には地域の理解や協力が必要です。この事業では主体となる団体が必要なので、事業や補助内容を市民や団体に対して広く周知するべきだと考えます。

（経済部長）市としては、農業体験を実施している団体、地産地消にかかわる団体、地元直売所や宿泊施設などに対しても積極的に周知を図ります。（吉川）すでに市内でこの事業に関心を持っている団体がいくつかありますが、国の支援のみならず、佐久市独自の支援など計画がありましたら、お聞かせください。

（経済部長）来年度、市の単独事業として農村グリーンツーリズム活性化事業を発案し、農泊事業に取り組もうとする者に対して補助をしようと考えています。現在実施計画について市民の皆さまの意見募集を行っているところです。この事業では2つ事業を設定したいと考えています。農泊事業に取り組む事業者等に対して準備費用などに対して補助をすること、あわせて、農業者の住宅を農家民宿に改修する際の改修費用に対して補助を実施していくことです。

（吉川）農泊を推進することによって、空き家や廃校の利活用も可能です。佐久市は新鮮な野菜や果物の産地です。安全な食材を、ほとんど手をかけずおいしくいただくといった贅沢を観光の目玉にもできるはずです。「食と健康」をテーマにした観光として、農泊事業は発展の可能性を持っており、佐久市としてぜひ推進してほしいです。

インバウンド観光

外国人観光客誘致への対応を

（吉川）昨年度日本へ観光に来た外国人旅行者は約240万人でした。国でも2020年にはインバウンド（外国人観光客）を4千万人に、2030年には6千万人という目標を掲げています。平成28年度のインバウンド消費額は日本全体で3兆7476億円だったそうです。和食ブームや東京オリンピックなどの影響を受け、ますますインバウンドは増大する見込みです。佐久市の状況をお聞きます。

（経済部長）県の平成27年外国人延べ宿泊者数調査結果によりますと、長野県にビジネスや観光で訪れた外国人延べ宿泊者数は約70万8千人で、平成26年の約46万5千人と比較すると1年間で約24万3千人増加しています。県全体の国地域別延べ宿泊者数を見ると、台湾が最も多く、ついでオーストラリア、中国の順となっています。佐久地域での外国人宿泊者数は、平成26年の5万6118人、平成27年が10万7612人、約5万1千人増加していて、県内10地域ごとの増加数を見ますと、佐久地域は北信について2番

目に延べ宿泊数が増えた地域ということだと思います。

（吉川）佐久市ホームページは、観光を考えている方が佐久市のことについて知りたいと思ったときにまず見るページです。今までの議会答弁でも、市としてインバウンドは大変重要、力を入れていきたいと答えておられます。しかし、2年前にリニューアルしたホームページは、日本語がわからないとなかなか使えないのです。トップページをご想像ください。例えば英語にしてみますと、中身は翻訳されても、ボタンは日本語のままです。せっかく「観光」というボタンがあっても、日本語が読めなければ佐久市の観光に関するページにたどり着けません。ボタンが翻訳機能で変えられないのなら、初めからせめて日本語と英語を表記するなど工夫が必要だと思いますが、いかがでしょうか？

（企画部長）近年の国際化の進展、また外国人旅行者の増加、さらに2020年の東京オリンピック、パラリンピックの開催を見据えると、市のホームページへの外国人のアクセスは増加していくものと考えられます。外国人のみなさまが佐久市をインターネットで検索するにあたり、最初にアクセスする可能性の高いサイトが佐久市ホームページであるとは認識しています。ご指摘もありました通り、文字を画像等で作成して表示をしている情報については文字を翻訳できないなど、すべての情報をお伝えできていない状況もあります。引き続き、外国人のみなさまに限らず、市民のみなさまをはじめ、佐久市のホームページを利用されるみなさまが情報を得やすく、またわかりやすいホームページなるよう改善と工夫を重ねていきたいと考えています。

（吉川）市内では観光案内板がどの程度多言語化しているのかお聞きします。パンフレットも多言語で対応していないようなので、案内板が頼りになってくると思うのですがいかがでしょうか？

（経済部長）佐久地域の外国人観光客が増

えている昨今、多言語表記が必要な市内の観光案内版も多くなっています。今後、市内観光施設などの観光案内看板について必要に応じて外国語表記を加えた看板に変更するようにしていきたいと考えています。

（吉川）外国人観光大使のブログには中山道茂田井宿が「秘められた宝物」として紹介されており、「ここは作られた観光地ではない。きれいな街並みの中におしゃれなカフェやTシャツ屋さんがあるわけでもない。人々の暮らしの中にある街並みで、ここに住んでいる人々によって愛され維持されてきた生きた街だ。2つの酒蔵も素晴らしい！」と書かれていました。中山道や貞祥寺、酒蔵などは外国人にとって大変興味深いものです。

（市長）佐久市の優位性は、災害が少ない、晴天率が高い、医療が充実している、人々とのつながりが深い、高速交通網の充実等々があると思います。長期滞在とか移住するとか、ワンシーズン暮らししてみると、この佐久市の長所が生きてくる。1月3日に春日の本郷で道祖神祭りがあります。暗闇の中で山車が100個くらいの提灯をつけて曳かれていく、大変幻想的です。望月の他地域、そして佐久市全体にもこのような美しさがちりばめられています。

長期滞在とか、時を楽しむなど、自然に自分を落とし込むというふうなことについて、佐久市は大変向いている地域だと思いますし、そういったものに価値を見出す人が増えているのではないかと思います。



11月に開催された「議会議と語ろう会」で司会をつとめる友子